

辺野古土砂北九州

発行…2025 年 4 月号・No.60



北九州市の隣町にある航空自衛隊・芦屋基地に、3月26日(水)、オスプレイが訓練の一環として飛来しました。当日は、地元や近隣の住民・議員など25名が抗議行動を行いました。詳しいことは、中の記事をお読みください。

《目次》

- 【オスプレイ】芦屋基地にオスプレイが(宗吉信・八記久美子)……………2 ページ
- 【土砂全協】オンライン「海砂」学習会(大野保徳)……………6 ページ
- 【九州防衛局】九州への長射程ミサイル配備撤回申し入れ(大野保徳)…8 ページ
- 【連続エッセイ】海砂はサンゴの贈り物(浦島悦子)……………10 ページ
- 【いろいろ】インフォメーション……………11 ページ

写真…藤堂均・宗吉信・北上田毅・ドローンプロジェクト・他



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

芦屋基地にオスプレイが訓練着陸

3月26日…地元・近隣の議員や住民が抗議行動

世話人・宗吉 信

■「何とか抗議行動を」と

3月18日(火)、佐賀空港のオスプレイ基地建設抗議行動のLINEグループで、26日(水)に築城基地、芦屋基地で陸自オスプレイが空中訓練するという情報が出た。すぐに「築城基地住民会議」の渡辺ひろ子さんに転送したら、何らかの行動をすると返事が来た。そう、築城はこういう事態には、いつもちゃんと対応してきたはずだ。でも、八幡西区に住む者としては、近くの芦屋基地でも抗議行動ができないかと考えた。

芦屋で活動している人や団体は知らなかったもので、八幡西で反基地運動に関わっている先輩に相談した。そこから広がり始めて、4人が来てくれることになった。「辺野古土砂ストップ北九州」も当日は世話人会の日だったが、これを延期し、僕を含めて3人参加できるようになった。更に、佐賀のLINEグループから、宗像市に住む2人も来ることになり、何とか格好がついてきた。

■地元や近隣の議員も

26日は午前10時過ぎから、芦屋基地正門近くの交差点で街頭宣伝をした。横断幕やプラカードも準備して、オスプレイが飛来するという情報が町民に知らされていないという問題や、オスプレイの危険性を訴えていると、地元芦屋町議会の議員さんが声をかけてきた。11時から正門前で地元と近隣の議員5名で抗議の申し入れをするという。合流させてもらうことにした。

■オスプレイが飛んできた

10時40分に築城で抗議行動している人から、オスプレイが飛び去ったという電話が入った。もうすぐこちらに来るだろうと構えていたら、オスプレイらしき重低音が聞こえた。離れた所を飛んでいたのか、あまり音は小さくなく、すぐ消えた。後で聞いたところではすぐ立ち去ったようだ。



手作りの横断幕を掲げる参加者

■住民には知らせなくていいのか

交差点は議員たちのグループも加わり 25 名になっていた。全員で 11 時に正門に行き、自衛隊の担当者に代表の芦屋町議が申し入れ書を読み上げて手渡した。更にシュプレヒコールで基地内に抗議の声を送った。その後また交差点に戻り、残れる人で街宣を続け、12 時前に終了した。

そもそも、オスプレイの訓練情報は、防衛省から佐賀県に入った通知を佐賀県議が提供して明らかになった。当日オスプレイは大村基地を出発して来るので、通過する県や市町村には通知があっていた。しかし、住民には全く知らされていない。事故多発の危険なオスプレイが上空を飛ぶのにだ。訓練のある芦屋でも町民に知らされていない。残念ながら訓練はこれからも繰り返されるだろう。佐賀にオスプレイが配備されたら、日常的になるだろう。でも、慣らされてはいけなと思う。オスプレイは危険だ。頭の上に落ちてこないように抗議を続けたい。(むねよしまこと)

陸自オスプレイ（V-22）の飛来について	
令和 7 年 3 月 防 衛 省 陸自オスプレイ（V-22）はこれまで段階的に飛行のプロセスを進め、飛行実績を積み重ねているところ、各種飛行訓練により運用の実効性向上を図っていくことは、各種事態における自衛隊の対処能力を強化するために極めて重要となっています。 陸自オスプレイ（V-22）は隊員等を輸送するための重要な装備品であり、部隊の任務遂行にあたっては様々な飛行場、演習場等における飛行を通じて、操縦士等の技能を向上させることが不可欠であるため、今般、陸自オスプレイ（V-22）による空中機動訓練（※1）を大村航空基地（航空基盤として使用）、築城基地及び芦屋基地で実施する計画です。 ※1 オスプレイによる空中機動を遂行し得る能力を保持するため、物資等の輸送を想定した各地域への飛行、降着・離陸、地上に所在する関係部隊等との調整を実施するもの ※2 早朝及び夜間の飛行は計画しておりません	
【訓練日程等】 日程：3月26日（水）〔予備日：27日（木）〕 〔3月25日（火）木更津駐屯地から大村航空基地へ移動〕 〔3月28日（金）大村航空基地から木更津駐屯地へ帰投〕 区間：大村航空基地～築城基地～芦屋基地～ 大村航空基地 機数：1機～2機程度	【陸自オスプレイ（V-22）】 



上…今回の訓練の概要が書かれている、防衛省の資料

左…抗議行動のひとつ



上段…当日の抗議行動の様子。下段…申し入れをする議員らと芦屋基地

滑走路が延長された芦屋基地

世話人 八記久美子

■初めてオスプレイが飛んできた芦屋基地

世話人からもらった防衛省の資料によると、3月26日(水)に芦屋基地に飛んできたオスプレイは、前日(25日)千葉県の木更津駐屯地から大村航空基地に飛来。26日には、大村航空基地→築城基地→芦屋基地→大村航空基地を飛行訓練。

大村航空基地も築城基地も、これまでオスプレイが飛来したことがありますが、芦屋基地は初めてです。

■そういえば、滑走路が延長されていたんだ

芦屋基地は、玄界灘に面した遠賀郡芦屋町と岡垣町にまたがっている基地で、基地の面積は東京ドーム約92個分の広さがあり、航空自衛隊では3番目の広さを有しているとか。個人的には、芦屋基地は「飛行訓練のための基地」というイメージを持っていましたが、PAC-3 MSE (PAC-3の新型)を導入し、高い弾道ミサイル対処能力を有した部隊となるなど、変化してきているようです。もちろん、強靱化の対象にもなっています。

10年くらい前のことですが、芦屋基地の1,640mの滑走路を、200m近く延長するということで、延長反対の学習会に参加したことがありました。資料を見ると、2018年から始まった工事は、2024年度末完成予定となっていました。

■7月…千葉から佐賀にお引越しのオスプレイ

現在、自衛隊所属のオスプレイは17機で、千葉県の陸自・木更津駐屯地に配備されています。木更津駐屯地での暫定配備期間は、今年の7月9日(水)までとなっており、その後は、「佐賀空港オスプレイ駐屯地」が、17機のオスプレイの住みかとなります。任務は、長崎の水陸機動団を琉球弧の島々に送ること。

2月に佐賀県が発表した「オスプレイ運用計画」では、1日の離着陸回数は平均16回・うち夜間が5回。年間290日で夜間は75日となっています。

■速さ実感

今回、改めて感じたのは、オスプレイの速さです。当会の世話人から聞いた話では、3月26日(水)10時9分、長崎県の大村航空基地を飛び立ったオスプレイは、15分後には福岡県の築城基地に到着。築城基地から北九州市の隣町にある芦屋基地までの移動は、5分もかからなかったようです。また、芦屋基地をすぐに飛び立ち大村航空基地に戻るオスプレイを、鞍手に住む別の世話人が10時45分に目撃しています。

資料によると、オスプレイの最大速度は時速565km。1時間あれば北九州市から琵琶湖まで飛べる速さです。また、操縦士等の技能を向上させることが不可欠であるため、今後オスプレイの訓練を、大村航空基地を中心に築城基地・芦屋基地で行うとあります。「佐賀空港オスプレイ駐屯地」が完成したら、芦屋にもオスプレイが頻繁に来ることになるんですね。

■一口に訓練と言うけれど…

一口に訓練と言ってもその内容はいろいろです。例えば、《離着陸訓練》離陸及び着陸時の操縦技法を習得する訓練。《制限地操作》…飛行場等以外の場所における離着陸等の操作を習得する訓練。《編隊着陸》…複数の機体が同時に着陸を行う訓練。《計器進入》…航空機の姿勢、高度、位置及び針路の測定を計器にのみ依存して、主に飛行場への進入を行う飛行…まだまだあります。

■来年、オスプレイの生産ラインは閉鎖される

余談ですが、米国防総省が1982年にオスプレイの開発計画を始めたときは、国内外で400～600機の販売を予定していたそうです。購買先としてオーストラリア・カナダ・インドネシア・イスラエル・韓国など、日本以外にも多数の国を予定していたそうですが、現実には日本の陸上自衛隊が17機を購入したのみ。「コストが高すぎる上、頻繁に飛行停止するために顧客が消えた」と、米国のメディアは紹介しています。なお、オスプレイは、2026年に生産ラインが閉鎖される予定になっています。

頻繁に飛行停止するため「空飛ぶ棺桶」「未亡人製造機」と言われるこんな怖いものが、頻繁に私たちの上を訓練で飛ぶなんて、たまったものではありません。(やつきくみこ)

土砂全協主催「海砂」オンライン学習会…北上田さんの報告から学んだこと

沖縄県は、海砂採取の全面禁止を

世話人 大野保徳

■3～5 年分の採取量の海砂が必要

昨年(2024)の 12 月 28 日から、軟弱地盤の改良が必要な大浦湾の海底に砂を敷く作業、1 月 29 日からは、砂杭・砂柱を打つ作業が開始された。現在、1 隻のトレミー船(敷き砂船)と 6 隻の SCP 作業船(杭うち船)が大浦湾に密集している。

地盤改良区域一面への敷き砂(厚さ 1.5m)、砂杭・砂柱(7 万本超)のくい打ち、A 護岸、ケーソン護岸の中詰材として海砂は地盤改良工事に不可欠。そのために、386 万 m³もの海砂が必要で、沖縄県内の年間海砂採取量の 3～5 年分もの量となる。来年と再来年が海砂の使用量のピークとなる。今年中に海砂採取規制についての何らかの成果を上げなければならない。

■海砂採取に規制のない沖縄県

西日本の各府県が、海砂採取を全面禁止か総量規制を行なっているなかで、沖縄県だけはそのような規制が無く、要綱で「海岸線から 1 km 以遠、水深 15m 以深、部分的な深堀禁止」を定めるだけである。

2019 年から毎年、北上田さんが所属する平和市民連絡会は、海砂採取の総量規制を沖縄県議会に陳情し、沖縄県土木建築部交渉を行ってきた。沖縄県は、「海砂は、建設用骨材などとして必要不可欠なもの。総量規制については慎重に検討したい」と答え、昨年(2024)から他府県の状況を調査し、関係者等の意見を聞く作業を行っている。



「チョイさんの沖縄日記」より

第3回

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

緊急オンライン学習会

大浦湾側の工事を止めるために
沖縄県での海砂採取を中止させよう!

2025年3月7日開催

第3回目となる土砂全協のオンライン学習会。この日は「海砂」がテーマ。その前は、「奄美からの土砂搬出問題」「急速に軍事化する奄美大島」の学習を行った。

今年 2 月の大浦湾の様子。狭い作業区域に、計 6 隻ものサンドコンパクション工法(SCP)作業船が密集している。

※サンドコンパクション工法(SCP)作業船…水はけのよい砂を杭状にした「砂杭」を軟弱地盤に打設し、地盤中の水を滲み出させることで地盤の改良を行うための作業船

■名護市安部区は海砂採取中止で県に陳情書

しかし、「海砂が建設骨材として必要不可欠」は疑わしい。なぜなら、かなりの量の砕砂(天然岩石を小さく砕いた砂)や再生骨材(コンクリートの再利用)が代替骨材として現在すでに使用されているし、海砂採取を全面禁止した他府県でも、そのことで建設業界が困っている訳でもない。

海砂採取は、自然環境破壊が著しい。海砂採取海域に面している名護市安部区は、総会で海砂採取の中止を求める決議を行い、2月の県議会に陳情書を提出している。



大宜味村沖の海砂採取による海の汚濁
(昨年7月・沖縄ドローンプロジェクト)

沖縄県は、辺野古新基地反対を県政の柱にしながら、大浦湾の自然環境破壊を止められていない。ならばせめて海砂採取全面禁止を実現して欲しいと思う。

(おおのやすのり)

《土砂全協オンライン学習会の豪華な講師陣》

この日は、「軟弱地盤改良工事における海砂の役割」北上田毅さん(当会顧問)の報告の他、「名護市安部区での取り組み」中村吉且さん(安部区在住・「壊死する辺野古の風景」著者)、「深刻な海砂採取の被害」奥間政則(沖縄ドローンプロジェクト主宰・一級建築士)、「瀬戸内の経験と生物多様性保護の海洋保護区」湯浅一郎さん(当会顧問)の報告もありました。

次回の第4回は《埋め立て用建造物「ケーソン」とは》です。

4月25日(金)19時～

講師は、北上田毅さん(辺野古土砂全協顧問)

柴田天津雄さん(辺野古のケーソンをつくらせない三重県の会)

■オンライン学習会の申し込みは…立田卓也さんまで

立田卓也 < 090-8282-6077 tateda.dosyazen@gmail.com > 参加費：1000円
学習会参加費は、振替用紙通信欄に「学習会参加費」と明記の上、下記の郵便振替口座に払い込み下さい。開催前の払込みが原則ですが、難しい場合は後日の振込みでもOKです。

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

他地域と呼応して…「九州への長射程ミサイル配備」の撤回求める 他団体と九州防衛局に要請行動

世話人 大野保徳

■他国攻撃できるミサイルを「九州に配備」の報道で

3月16日、「政府は、他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力(敵基地攻撃能力)を持つ長射程ミサイル(地上発射型)の先行配備先を、九州とする方向で検討に入った。2025年度末の配備開始を想定している」と各紙が報道した。

それを受け、先月の鹿児島集会で発足した「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」(以下:「沖・西ネット」)は抗議声明を発し、参加団体が各地で行動することを決めた。

■当会と福岡市の団体で要請行動

3月21日14時、「沖・西ネット」の参加団体である当会と、福岡市の「戦争政権に反対し行動する実行委員会」(以下:「行動実」)が共同で、九州防衛局に対して要請行動を行った。これまでと違って2階会議室が用意され、地方調整課長・基地対策室長他2名の対応を受けた。

まず、当会世話人の宗吉信が「沖・西ネット」の抗議声明文を、次に「行動実」の井手一徳氏が「行動実」の要請文を読み上げ、それぞれを手渡した。

その後、参加者各自の思いや質問を投げかけてのやり取りを経て、文書での回答を求めた。しかし、九州防衛局側は、今回の抗議声明文・要請文について、各部所へ報告はするが、地方公共団体以外の団体への文書回答はできないと、口頭回答にこだわった。

予定の30分を超え、再三の報道官からの終了予告のなか、地方調整課長の口頭回答を受け、やむなく要請行動を終えた。もちろん、ミサイル配備撤回の言葉はなく、15時になっていた。

■石垣・那覇・大分・熊本でも要請行動

「行動実」の井手一徳氏が、「沖縄防衛局は会議室で対応しているではないか！」と強く会議室での対応を求められたために、1階ロビーでの報道官対応から、2階会議室での2課長対応へと変わったようである。そのために15名までと人数が制限された(実際には16名が



当会が九州防衛局に行ったのは、この日が3回目だが、初めて部屋に通された。

参加)。北九州市からは、当会世話人2名と会員1名の参加だった。18～22日に石垣・那覇・大分・熊本各市にて、同様な行動と記者会見が行われた。

(おおのやすのり)



九州防衛局との交渉の前に

「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」の声明文(一部)を紹介

3月16日、政府は他国領域攻撃用の長射程ミサイルを九州に「先行」配備する方向で検討に入ったとの報道（共同通信）があった。

具体的な配備先は不明であるが、陸上自衛隊は、大分県湯布院駐屯地と熊本県健軍駐屯地に「長射程ミサイル」を運用する地対艦ミサイル連隊を配置しており、先行配備の可能性が懸念される。25年度内の「長射程ミサイル」配備について国会でのまともな議論もなく、国民に対する説明もないままの配備は到底容認できるものではない。「長射程ミサイル」配備は、明らかに「専守防衛」を超え、中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国など近隣諸国に強い懸念をもたらし、緊張を高めるものである。「長射程ミサイル」を配備することは、反撃・攻撃を受けるリスク、住民の命や財産を奪われるリスクを高めるもので、決して戦争の「抑止力」になどならない。憲法9条を生かした外交、アジアの平和構築こそが最大の「抑止力」である。

主食のコメすらまともに供給できない国がなすべきことは、まず「人と生活の安全保障」であって、「軍備拡大・戦争準備」などではない。

私たちは、九州であれ、沖縄であれ、日本のどこであれ国民の命や財産を犠牲にする「長射程ミサイル」配備を受け入れることは絶対にできない。

他国領域攻撃用長射程ミサイル配備計画に断固抗議する。

浦島悦子の連続エッセイ 《南の島から》 No.60

海砂はサンゴの贈り物

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



私の住む三原区の二つ北隣の嘉陽区は、かつて、岸に近い浅海にジュゴンの餌場である海草藻場が豊かに茂り、見渡す限り人工物のほとんどない白砂の浜が続く、それはそれは美しい場所だった。ここには雄のジュゴンが定住しており、私が所属していたジュゴン調査チームの主な調査地でもあった。

私は潜水はできないが、シュノーケリングで初めて嘉陽のイノー（サンゴ礁の内海）を泳いだ時の感動を今でも忘れることができない。岸から泳いで5分も経たないのに、そこはまるで別世界だった。海草の草原がどこまでも広がり、その間にヒトデやウニ、イソギンチャクにクマノミが見える。泳いでいると、いろいろな魚、時にはウミヘビとも出くわす。

回を重ねるうちに、少しずつジュゴントレンチ（ジュゴンが海草を食べた跡）がわかるようになった。美味しそうな海草だなと感じるところに、それがあるのだ。「ジュゴンの気持ちがわかるようになったのかな？」と仲間と笑い合った。

その海が今、見るも無残な状態になっている。あれほど豊かだった海草藻場はなくなり、当然ながらジュゴンも姿を消した。昔から海に親しんできた嘉陽の人々は、海底地形が変わり、タコの穴がな

くなった、魚も貝も採れなくなったと嘆き憤る。白砂の浜は、今では砂がなくなって石ころだらけ。台風時には波が集落まで押し寄せる被害も出ている。

その原因は何か？ すべてとは言えないが、沿岸における大量の海砂採取の影響が大きいと考えられる。

沖縄では、1972年の「日本復帰」以降、大型公共工事のコンクリート骨材として海砂が使用されてきた。島が小さく川の短い沖縄には川砂はほとんどないからだ。それは相当量に及び、沿岸環境に大きな負荷を与え続けている。沖縄の海砂はサンゴが長い年月をかけて作ったものであり、一度採ると回復には千年単位の時間を有すると専門家は語る。

今年、大浦湾で始まった軟弱地盤改良工事＝砂杭を打ち込むのに、沖縄の年間海砂採取量のなんと3年分を使うという。

嘉陽の隣の安部区では、海砂採取への協力金200万円を持ってきた業者を追い返し、区民総会で全会一致の採取反対決議を上げた。これまで海や生活環境を破壊されてきた住民の、これ以上は我慢できないという総意だった。

沖縄の未来のために「これ以上採ってはいけない！」を県民の総意にしていきたい。（うらしまえつこ）

《インフォメーション》

(1)「奄美大島から辺野古埋立のための石材・土砂を調達しないことを求める署名」へのご協力、ありがとうございました。
4月10日(木)に、衆議院第二議員会館にて、第一次署名提出&防衛省交渉等を行います。

※北九州で集めた署名は、現在 877 筆です。

※4月10日は、北九州から世話人の松本秀樹さんが参加します。

(2)「土砂全協(辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会)」の第12回総会が、5月24日(土)・25日(日)、奄美大島で開催されます。

(3)「辺野古土砂ストップ北九州」の定期総会を、これまで8月に行っていましたが、8月は平和の取り組みが様々行われ、総会と重なることが多いので、今年は7月27日(日)に予定しています。それに合わせ、会計年度の〆は4月30日。議案送付は7月の第1週を予定しています。

※恒例の「会費納入状況のお知らせ」の表は、今年も議案と一緒にお届けします。

(1)(2)に
参加しようかなと思われる方は
土砂全協のHPを
ご覧ください。



《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 4月02日(水)…《会報発行作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
《世話人会》 会報発送作業終了後、同じ部屋にて
- 4月10日(木)…《土砂全協》署名提出&防衛省交渉 衆議院第二議員会館
- 4月20日(日)…《平和といのちをみつめる福岡大集会》13時～
新田原グラウンド(行橋市稲童 245-1)
- 4月25日(金)…《土砂全協・オンライン学習会・埋立用建造物「ケーソン」》19時
- 4月26日(土)…《小倉駅前街頭宣伝》16:00～
- 4月30日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 5月07日(水)…《会報発行作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- 5月24日(土)・25日(日)…土砂全協総会 in 奄美大島

「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)です。

カンパ熱烈大歓迎!

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】

090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。



《辺野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2025 年 4 月 2 日発行